

令和6年度

和田島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・学習規律の確立と、基礎基本の定着
- ・ICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員
- 福田 淳子 教頭：濱本薫 教務主任：角美子
生徒指導主任：横田裕江 研修主任：福田淳子
人権教育主事：井河美葉
特別支援教育コーディネーター：吉田里織

校長

上田 剛

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---------|----------|-------------|
| ○漢字の読み書きや四則計算などには意欲的に取り組む児童が多い。 ●学習規律の定着が不十分であったり、話を聞く力が十分育っていない児童もあり、基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分でない児童がいる。 | ・学習規律を守り、基礎的・基本的な知識・技能を身につける。 ・語彙を増やしたり言語活動の基礎となる文章表現を学んだりし、日常生活の中で活用できる。 ・学年相当の漢字の読み書きができる。基礎的な四則計算ができる。 | ・学習規律について、全校で共通理解を図り、児童に具体的に示す。 ・言葉遊びや国語辞典の活用、新聞の利用等を通して語彙を増やすようにする。文章表現の機会を増やす。 ・漢字の小テストや計算のドリル学習を実施し、基礎的学力をつける。ICT等を利用し、視覚的に分かりやすい授業の工夫をする。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---------|----------|-------------|
| ○自分が体験したことについては、進んで書いたり話したりすることができる児童が増えてきつつある。 ●問題文を正確に読み取ったり、理由や根拠を整理しながら分かりやすく説明したりする論理的思考が十分育っていない。 | ・考えを整理してから話したり書いたりする習慣を身に付ける。理由を明らかにしながら、一人一人が自分の考えをもち、表現することができる。 ・自分の考えと相手の考えを比較・検討することで、よりよい考えを見つけ出すことができる。 | ・自分の思いや考えをもったりまとめたりするために、「書く」活動を多く取り入れる。 ・児童が自分の思いや考えを説明できるように、発表の仕方を提示しておく。 ・ホワイトボードやICTを活用し自分の意見と友達の意見を共有する機会を増やし、深い学びへと繋げていく。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---------|----------|-------------|
| ○好奇心旺盛で、体験活動を伴う学習に意欲的に取り組むことができる。活発で人懐こい児童が多い。 ●自分から課題を見つけたり、粘り強く取り組んだりする力に課題がある。 | ・読書や家庭学習を通して、自ら学ぶことの楽しさに気づくことができる。 ・課題に対して、自分の考えた方法で、粘り強く探求することができる。 ・自分の得意分野を伸ばしたり苦手分野の復習をしたりする。 | ・自主学習ノートを紹介したり、家庭読書の日を設けたりし、児童の家庭学習への意欲を高める。 ・自分のめあてを持たせ、ふり返りをする中で、児童が達成感を味わい学習活動の意欲を持続できるようにする。 ・ICTを用いて理解度に応じた学習をする。 | | | |

令和6年度 学力向上ロードマップ



